

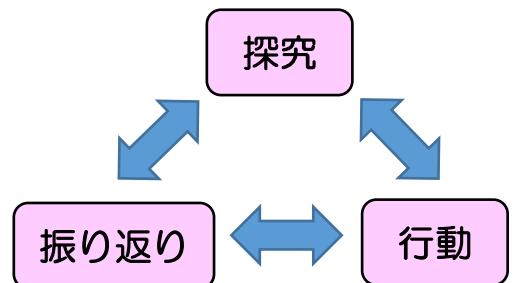


## IB 教育特集 第2号 自ら問い合わせ、社会とつながる— MYP(IB 中等教育プログラム)が育む「探究」と「行動」の学び

### 1. 「探究学習」とは何か?—知識を「使う力」へ

IB 教育の授業は、すべて「探究 (Inquiry)」から始まります。従来の授業が「答えを教わる場」だったのに対し探究学習は生徒自身が「なぜ?」「どうして?」という問い合わせを立て、調査し、自分なりの答えを導き出すプロセスを大切にします。単に教科書を暗記するのではなく、「学んだ知識を、現実世界の課題を解決するためにどう使うか」を考えます。この「問い合わせ」から始まるサイクルが、変化の激しい社会を生き抜く「考える力」を育てます。

すべての学習において「探究」「行動」「振り返り」のサイクルを意識しながら取り組むことでサイクルを身につけ、卒業後も使える『生きた学び』になるとされています。



### 2. 学問の壁を越える「学際的単元 (IDU)」

現実社会の問題は、1つの教科の知識だけでは解決できません。それぞれの教科で学んだことを関連付けて考えることでより深い理解へと進みます。そこで MYP では、複数の教科を掛け合わせて学ぶ「学際的単元 (Interdisciplinary Unit)」を実施します。

例:気候変動を考える。

「科学」(理科)の視点で二酸化炭素の性質を実験。

「個人と社会」(社会)の視点で各国の経済政策や格差を分析。



両方の知見を統合し、自分たちにできる解決策を提案する。

このように、異なる複数の教科の視点を結びつけることで、より広く深い洞察力を身につけていきます。教科はあくまでも「枠組み」なのであって、社会はそれらの枠組みが互いに関連し合って成り立っているといえます。つまり、それぞれの教科で学んだことがその教科でしか生かされないのなら、その学びは将来的にあまり意味のあるものではないということです。世界は複雑でお互いに深く絡み合っています。そんな世界に生きていく私たちには、学際的な学びが必要です。

### 3. 総合的な学習の時間とコミュニティープロジェクト(CP)

#### (1) 総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」は、変化が激しい社会に対して、自分で課題を見つけ、自分で学び、自分で考え、判断し、課題を解決する力を育むことを目的に進めていきます。「総合的な学習の時間」においても、ほかの学習と同様に「探究」「行動」「振り返り」のサイクルに沿って取り組むことになります。「調査」することで私たちを取り巻く社会の課題や問題を見つけだし、課題や問題に対してどのように取り組んでいくのかを「計画」し、実際に「行動」を起こしていきます。そして、社会にどのような影響を及ぼしたのか、うまくできたことは何か、できなかったことは何か、今後どのようなことが必要なのかを「振り返り」ます。

#### (2) コミュニティープロジェクト(CP)

IB のプログラムでは、「総合的な学習の時間」に、3年生で全ての学びの集大成として、コミュニティープロジェクト(CP)に取り組みます。個人またはグループで、自分が所属するコミュニティー(学校、地域、あるいは世界)の中にある課題を見つけ、その解決に向けて主体的に動きます。1、2年生で身に着けた探究のサイクルを生かして、調査・計画・行動・振り返りを行い、作品の作成やレポートの作成、発表などに取り組みます。

学年	活動内容	目的
1年	プロジェクト学習の導入 ～探究のサイクルを身につけよう～	探究のサイクルを理解し、まとめ方や発表の方法を学ぶ。
2年	プレ・コミュニティープロジェクト ～自立した学習者を目指して～	探究のサイクルを実践し、具体的行動をとる。
3年	コミュニティープロジェクト ～3年間の集大成～	「IB の学習者像」に近づき、必要な場面で ATL スキルを発揮する。

- 例：
- ・ 地域の伝統文化を絶やさないためのワークショップ開催
  - ・ 校内の食品ロスを減らすためのアプリ提案
  - ・ 高齢者向け運動の考案と実践による地域活性化の可能性
  - ・ 地域の食材のお菓子で町おこし～商品化に向けての取組～

### 4. サービス アズ アクション(SA)

生徒が「行動」(実際に経験することによって)によって、地域社会や人々の生活に貢献することを目指す活動です。コミュニティープロジェクト(CP)で取り組む「奉仕活動を通じた学習」の準備になり、CP で取り組む行動をさらに深める要素となります。1年の中で1回以上 SA に参加することになります。

校内で企画されたSAに参加

自分でSAを企画して実施

校外の活動に参加